

図書館だより



大阪市立東陽中学校図書館

2020. 4月①

今こそ、本の旅に出かけてみよう！

いつもなら、図書委員会が発足し、図書館開きを行う時期です。しかし、今年は感染症対策で、学校は休業になっています。図書館も開館することができません。

みなさんは、おうちで課題に取り組んだり、お手伝いをしたり、筋トレをしたりと、自分なりの過ごし方をしていると思いますが、外に思うように出られない今だからこそ、本の中で旅にでませんか。



図書館に行ったり、新しい本を買いに行ったりするのも難しい状態なので、一度読んだ本や教科書の読み物などを読んでみるのもよいと思います。前に読んだ本でも、自分自身の年齢や立場によって、とらえかたが変わり、新しい発見もあります。子ども向けの本を大人が読んでもおもしろかったり、子ども時代にはわからなかった教訓に気づいたりすることも少なくありません。

本好きはもちろんのこと、いつもはパラパラめくりで本を読んでいた人も、この機会をチャンスに本と友達になってください。

読むものがないという人に、電子図書館の**青空文庫**をお勧めします。青空文庫は、PCやスマホで読むことができ、無料です。（青空文庫は、著作権が消滅した作品や作者が許諾した作品のテキストをボランティアの方々が公開しているサイトです。）

著作権が消滅した作品ということで、文学作品が多いですが、芥川龍之介や太宰治、夏目漱石、森鷗外などの教科書にも出てくる作品もあります。中学生のみなさんにも十分読める作品がたくさんありますので、ぜひ挑戦してみてください。

「星の王子さま」 サン＝テグジュペリ

砂漠に飛行機で不時着した「僕」が出会った男の子。それは、小さな小さな自分の星を後にして、いくつもの星をめぐる七番目の星・地球にたどり着いた王子さまだった。いちばんたいせつなことは、目に見えない世界中の言葉に訳され、70年以上にわたって読みつがれてきた宝石のような物語。



こどもの読書週間

4月23日から5月12日は「こどもの読書週間」です。

子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所をとの願いから、「こどもの読書週間」は1959年（昭和34年）に誕生しました。

「賢者のおくりもの」 O・ヘンリー

若くして夫婦になったジムとデラは、貧しくも互いを愛して暮らしていました。ジムの宝物は祖父から父へと代々伝わる金の時計、デラの宝物はその美しい髪の毛でした。クリスマスの前日、デラはそれまで生活を切り詰めてきたにもかかわらず愛する夫にプレゼントをを買うだけのお金がないことを嘆き…。彼女はどのようなのでしょうか？心温まる愛の物語。

「蜘蛛の糸」 芥川龍之介

ある日のこと、極楽の蓮池の周りを散歩していたお釈迦様は、ふと池の中をご覧になった。澄み切った水を通して映し出されたのは、地獄で苦しむ亡者どもの姿。その中にカンダタという男がいた。生前は大泥棒として悪事の限りを尽くした男だった。お釈迦様はこのカンダタも、たった一つだけ良いことをしたと思いだされる。極悪人のこの男も、ある時蜘蛛の命を奪わずに助けたことがあったのだ。何とかこの悪人を救い出そうと、お釈迦様は極楽の蜘蛛の糸を蓮池から下ろされた。そのあとのカンダタは？カンダタの姿こそ、私たちの姿だったのか？色々考えさせられる作品です。



他にもたくさんあります！自分にあったものを探してみてください。

- 夏目漱石 「坊ちゃん」
- 小川未明 「赤いろうそくと人魚」
- 樋口一葉 「たけくらべ」
- 山本周五郎 「さぶ」

- 森鷗外 「高瀬舟」
- 太宰治 「走れメロス」
- 小泉八雲 「耳無芳一の話」
- アーネスト・ヘミングウェイ 「老人と海」



開館したら、来てね。